



市制施行30周年記念事業

「未来の鶴ヶ島」 作文コンクール

☎ 教育センター ☎287・3858

市制施行30周年記念事業「未来の鶴ヶ島」作文コンクールの入賞作文を紹介する2号連続企画。
今月は、以下の2人の作文を紹介します。

【議長賞】^{ながせむさし}長瀬武沙士さん 長久保小学校6学年

【市制施行30周年記念賞】^{いまげきひな}今関姫愛さん 藤中学校2学年

※ 表彰式や受賞特典の一日市長体験の様子、【市長賞】^{はたりゆうたろう}秦隆太郎さん(藤中学校1学年)、
【教育長賞】^{はまべ}長谷部慶太さん(新町小学校5学年)の作文は広報2月号に掲載しました



今関姫愛さん



長瀬武沙士さん



議長の理想の鶴ヶ島

長久保小学校 六年 長瀬 武沙士

「理想の鶴ヶ島」とはどういうものだと思いますか。ぼくは、様々な公共施設の充実だと思います。例えば、スポーツができる体育館は今でもありますが、さらに魅力的な体育館を創りたいと考えました。

ぼくは卓球が大好きです。だから、ラケットやラバーの試打、卓球ロボットの設置、プロ選手の講習会などを実現したいです。また、卓球以外の他のスポーツが好きという人もいます。そんな人でも楽しめるのが、ぼくの考えたスポーツ施設です。屋内に限らずサッカーや野球などの屋外スポーツができるスペースをつくりたいです。アンケートをとって好きなスポーツを聞いてみるのもいいかもしれません。

スポーツをして汗をかいた後にこの施設の中にある、つるゴン食堂へ行くのがオススメです。この食堂は鶴ヶ島のものを使い地産地消にこだわっています。特産品のサフランを使ったカレーライスや彩の国のもの、つるゴンをイメージしたデザートなどをメニューにしたいです。鶴ヶ島の特産品や名物の開発もしてみたいです。

また、休日は子どもがお手伝いできる食堂になれば、職業体験ができる場所になると思います。それにつるゴンにもふれ合えたり友達もつくれたりします。スポーツを通して食堂の中で年齢も関係なく交流ができる環境にしたいです。小さい子どもからお年寄りまで安心安全で、目で見ても楽しい、食べても美味しい、そんな食堂にすることでみんなにやさしい鶴ヶ島につながると思いました。

しかし、これだけでは全員が笑顔にならないのではと考えました。そう考えた理由は、障害をもっている人たちがいるからです。そんな人たちの声にも耳をかた向け、バリアフリーも充実した施設にしたいです。そうすることで誰もが気軽に来れる施設になるのではないのでしょうか。

この館内では他にも月1回、つるゴンお悩み相談室を開催していきます。対象は、小学生以下で様々な悩み事をつるゴンが解決に導いてくれます。そんな子どもたちが笑顔になれる施設が理想です。さらに、交通の便を良くすることで県外の人でも楽しむことができます。もちろんこの施設への送迎はつるゴンが無料で連れていってくれます。

これがぼくの理想です。鶴ヶ島は村から町になりやがて市となりました。それに、つるゴンが人気投票ランキングで全国3位になっています。鶴ヶ島は育ちの地でもありぼくにとって誇りの街です。これからも鶴ヶ島は、市民で団結して前に進み続け、進化を成しとげると信じています。



市制施行30周年記念事業

「こども宇宙プロジェクト」

— みんなの夢と笑顔を宇宙へ —

モザイクアート公開

政策推進課政策担当

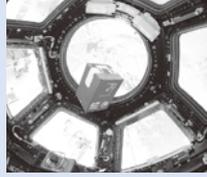
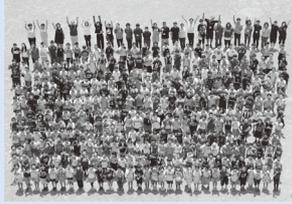
市制施行30周年を記念し、市では子どもたちと一緒に「こども宇宙プロジェクト」に参加しました。

4月 写真撮影

12月 ロケット打ち上げ

モザイクアート公開

地球へ帰還(3月展示予定)



写真提供：KSK

子どもたちの写真約4600枚が使われています

ISS(国際宇宙ステーション)に滞在している宇宙飛行士が、観察モジュール「キューポラ」内でモザイクアートをお披露目！

地球に帰還したモザイクアート(現物)を市役所で展示予定。詳細が決まり次第市ホームページなどでお知らせします。

モザイクアート作成



市の伝統行事「脚折雨乞」をテーマにモザイクアートを作成

令和3年12月21日ロケット打ち上げ成功。子どもたちの夢、宇宙へ！

「こども宇宙プロジェクト」とは？

市内小中学校などで撮影した写真を使って、モザイクアートを作り、子どもたちの夢と笑顔を国際宇宙ステーションに届けるプロジェクトです。

宇宙での様子が
見られるよ！



詳細はこちら

市制施行30周年記念賞

鶴ヶ島の未来

藤中学校 二年 今関 姫愛

未来の鶴ヶ島はどんな街になっているだろうか。中学二年生の今、私は考えた。

私が住んでいる鶴ヶ島にはすでに良いところが沢山あると思う。一つに、人と人とのつながりが強いことだ。私は市の広報をよく目にする。中でも近頃の様子として、自治会の行事や小学生の交通パトロールをしているのを取り上げている。このような活動ができるのは、やはり人とのつながりがあるからではないか。また、四年に一度「脚折雨乞」が行われている。現在はコロナウィルスの影響もあり開催できずにいるが、鶴ヶ島の重要なものである。

私が考える鶴ヶ島のビジョンがある。

一つは、今の鶴ヶ島の良いところがさらに大きく発展した「明るいつるがしま」だ。

「脚折雨乞」をずっと続けていく事はもちろんのことだ。そして今より人とのつながりを強くすることは地域の活性化にも関わってくると思う。つながりが強くなれば、市民達が交流する機会が増えるはずだ。交流の機会が増えると、つながりは大きくなる。大きくなるということは、より多くの意見を取り入れられる。この意見が鶴ヶ島を良い街へと変えていきやすくなるのではないだろうか。

そして「誰もが気軽に寄れるつるがしま」だ。鶴ヶ島をより多くの人に知ってもらえれば、より楽しい街になっていくと思う。そのためには私たちがまだまだ知られていない鶴ヶ島のことをもっと発信していくべきだ。

このビジョンを現実的に近づけていくためには、私はまずもっと積極的に行動しようと思う。まずは自分から地域の人に挨拶したり、イベントや行事に参加することだ。自分も地域の輪に加わってつながりを深くしていきたいと思う。

そして鶴ヶ島を広める活動をすることだ。ところが未来の鶴ヶ島を考えた時、私はアピールが足りないと感じる。鶴ヶ島にはたくさん良いところがある。しかし、その良さが、大勢の人に伝わっていないのかと言えそうではないと思う。

一人一人で行えることもあるが、やはり市や地域でできることを考えた方が良いと思う。例えばSNSを利用してのつるゴンのアピール。せっかくなにかわいいキャラクターだ。誰もが使いたくなりそうなグッズをもっと考えるのも一つだと思う。

もっと鶴ヶ島の良いところを、みんなで協力して発信していきたい。そして鶴ヶ島のことをより多くの人に知らせていきたい。

未来の鶴ヶ島はどうなっているかわからない。近未来な都市かもしれないし、今と変わらないままかもしれない。どのように変わっていくかは私たち次第である。そのことを忘れずに鶴ヶ島がより良い街になることを考えて、日々生活していきたい。